

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2592400028		
法人名	社会福祉法人 近江薫風会		
事業所名	スマイルグループホーム		
所在地	滋賀県米原市寺倉603番地の3		
自己評価作成日	令和6年3月14日	評価結果市町村受理日	令和6年9月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2592400028&SCD=320&PCD=25
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 滋賀県介護福祉士会		
所在地	滋賀県草津市笠山七丁目8番138号滋賀県立長寿社会福祉センター内		
訪問調査日	令和6年8月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

弊事業所は、「地域の人々とともに、愛され、安心かつ信頼をされる社会福祉法人」を基本理念に、新しい福祉のスタンダードの構築を目指し、日々、実践いたすことと致しています。私たちがご提供させて頂くサービスは、私たちや関係者がそのサービスを利用した場合にも納得できるものであらねばならないと考えています。当施設では、ご利用者の方の尊厳の保持を最優先に位置づけることは基より、「暮らしの継続」を意識した、ゆったりと、豊かに、その人らしい生活をお送り頂けるよう、常にご利用者の目線に立って、情熱と気概を持って介護のプロとしてあるべき姿を追求していくことと致しています。また、施設運営では、コンプライアンスの保持とリスクマネジメントを最優先課題とし、安全・安心の充実に努めることと致しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同敷地内には、特別養護老人ホームやデイサービスセンターが併設しており、職員研修や防災・イベントなどお互いに協力関係にある。地域の方より野菜をいただいたり、地元のイベントに参加する等の交流が継続している。防災訓練では、運営推進会議のメンバーに避難訓練の実施状況を見学・参加してもらう等のつながりが築かれている。季節の花が飾られた明るいリビングからは、季節の移ろいを感じることも出来る田んぼが見え、利用者と共に作業をして収穫が楽しみな果樹園や家庭菜園があり自由に散歩も出来る。職員は、利用者1人ひとりの今までの生活習慣や特性を把握し日常生活の中で出来る力を活かした自立(律)の支援に努めている。利用者や職員の安全・安心の補助として眠りスキャンや見守りシステムが装備されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	年に1回、内部研修にて法人代表が経営理念を説明しています。また、理念の習熟度を図るテストを行い、浸透を図っています。職員室内に経営理念を掲示し、いつでも確認出来るようにしています。	住みなれた地域や場所で、ゆったり、豊かに、その人らしい「暮らしの継続」支援を全職員で共有し実践に取り組んでいる。年1回の職員研修では、理念に基づいた支援になっているか振り返り再確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員、ご入居者と地域の防災訓練に参加したり、地域の方に法人の防災訓練に参加いただいたり、シルバー人材センターを通じて宿直業務を務めていただいたり、運営推進委員の方々と情報交換を行っています。	運営推進会議を通じて情報提供があり地域の行事に参加することで交流が深まっている。地域の方より野菜の差し入れが度々ある。年2回認知症カフェを開催し地域の方の参加を呼びかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月第2第4土曜日に開設している「ちょっと相談所」では、電話等でも「認知症に関する相談や悩み事」をお受けしています。また、介護サービスに関心のある方は、併せてご案内しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業内容や施設の運営状況、ご入居者の状況等を報告し、行政、地域、ご家族それぞれのご意見、ご提案を聞かせていただき、その意見を全職員が共有してサービスの向上につながるように努めています。	定期的に家族・地域・行政の代表者が参集して運営推進会議が行われている。事業所の現況や取り組みの報告・それぞれの代表との情報交換や意見交換が活発に行われている。家族等へはスマイル通信で伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に一度の運営推進会議にご出席いただき、事業所の状況や取り組みをお伝えしご意見を伺ったり、情報交換等を行っています。	市町の担当者に事業所の現況や取り組みを伝え意見や提案を交換している。法人全体ではあるが市町からの講演依頼があれば出向く等、協力関係がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修でマニュアルを再確認し、正しい知識を習熟出来るように努めています。また、身体拘束防止(人権擁護・虐待防止)委員会では、他のユニットと意見交換や情報交換を行い、正しいケアが行われているかを互いに確認しています。	法人全体で身体拘束廃止に取り組んでいる。職員は、定期的に内部・外部の研修に参加し、レポートを提出して不適切ケアはなかったかを振り返り、身体拘束をしないケアについて再確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部、内部研修に参加し、学んだ事を全職員が共有しています。入浴時や更衣時に皮膚状態や体調等に異変が無いかが全職員が確認し、万が一にでも虐待の疑いが無いかを確認する糸口の一つとしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部、内部研修で全職員が習熟を高め、そうした情報を必要とされている方には、適宜情報を提供し、支援を行えるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、順を追って丁寧に説明させていただき、ご質問やご意見が無いかを都度伺っています。また、介護報酬改定等があった場合は、速やかにご説明の上同意をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議や電話等でのご報告の際、ご家族に運営の状況やご入居者の生活状況をお伝えし、ご意見を伺って、サービス向上に努めています。	日頃の面会時や電話で意見や要望を伺うこともあるが、ケアプラン作成時の話し合いでも伺う機会としている。出された意見や要望は、職員間で検討し反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、職員一人ひとりが忌憚なく発言出来る場を設けています。また、年2回、施設管理者、施設長との面談を行い、意見や提案を個別に伝えられる場を設けています。	会議では、全職員が意見や提案を発言しやすいよう管理者は否定せず聴くように心がけている。個別面談では、勤務環境等についても話し合う機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回のチャレンジシートによる面談の場で、個々の努力や実績、要望の把握に努めています。職員が仕事と私生活のON/OFFがうまく出来るよう、働きやすい勤務環境や条件の整備(週4日勤務等)に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には「新人教育プログラム」のもと、きめ細かいOJT指導を行っています。既存職員については、日頃から個々の力量を把握し、本人の能力向上に資する担当業務を策定、また、外部・内部研修を受けられる機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で機会は少なくなっていますが、外部研修やグループホーム部会等を通じて同業者と交流し、参考になることを積極的に吸収して、自施設のサービスの向上につながる様に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査で、ご本人のご意見に耳を傾け、生活スタイルをよく観察して把握します。その上で、ご入居後もその方に合わせた生活を送っていただけるよう、職員間で情報を共有して調整し、安心して過ごしていただけるように努めています。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査やご説明の際に、ご家族の困りごと、ご不安に思われていることが無いのか、必ずお聞きしています。また、ご要望に耳を傾け、それを実施していくことで、安心していただけるような関係作りに努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族のお話を伺い、生活歴や健康状態、認知症状を把握し、今何が必要なのかを見極め、その方に合ったサービスが行えるように努めています。他のサービスが良い場合は、適宜ご紹介しています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設内で、職員がご入居者と共に過ごしていただく中で、日常的に会話をしたり、調理や掃除、季節の行事等と一緒に取り組んでいただき、生活の場として共に過ごすことで、自然と信頼関係が築けています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にご本人の生活状況を都度お伝えし、ご意見やご提案を伺って、共にご本人のお暮らしを良くする為の助力をいただいています。また、外出行事等にご参加いただき、一緒に過ごせる場を設けています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限を緩和し、コロナ禍以前のようなご家族やご親戚、お孫さんや知人の方との面会が行えています。また、年2回家族会を開催し、同様に馴染みの方々と会われ、関係性が途切れないようにしています。	馴染みの友人と面会や外出がある。今まで行っていた場所へのドライブや買い物外出の支援がある。事業所は今後も馴染みの人や場所との関係が途切れない様に家族等と相談しながら支援していく意向である。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者お一人おひとりの認知症の症状の状況や性格を考慮して座席の配置を行い、職員が仲立ちをするなどして、ご入居者同士がより良い関係が保てるように努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、ご家族からの相談やご要望があれば、可能な限り支援をさせていただいています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で、ご本人のご希望や意向を把握できるように努め、言葉でお伝えされることが困難な場合は、ご本人の仕草やご様子からくみ取り、対応できるように努めています。	暮らしの中での何気ない会話や、個別ケア(特に入浴時間)は、本音で思いや希望を聞くことが多い。言葉で表現しづらい方には、選択肢で聞いたり、何気ない動作や表情から把握に努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査の段階で、ご家族や、現在ご利用されている施設等から聞き取りを行い、ご本人の生活歴や暮らし方を把握し、その暮らしが継続できるように努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所されてからは、24時間の生活状況を把握するシートを活用して、その方の現状の把握に努めています。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは全ての職員が参加し、月1度のケアカンファレンスでは、課題やケアのあり方等を話し合い、介護計画を作成しています。それをご家族に提示し、忌憚のないご意見をいただいています。	4カ月ごとに、本人・家族等と同席して、思いや意見を聴き、話し合う時間を設け介護計画を作成している。モニタリングは、日々のケア記録を参照に全職員で検証し、本人・家族に説明している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やケアプランの実践チェック表を通して、日々の気づきや情報を職員間で共有し、ケアの見直しを行っています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族やご本人のニーズや課題を適宜把握して、毎日のケア実践項目にすぐに取り入れる等、柔軟な支援が行えるように努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のお地蔵さまや地域の公園まで散歩をしていただいたりして、地域の風景の中で季節を感じられるお暮らしを楽しんでいただいています。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前にご本人、ご家族にご説明し担当することを了承いただけた事業所の主治医に、月2回往診をお願いし、医療支援を行っています。また、ご本人、ご家族のご希望をお聞きし、必要な方には他の病院への受診の支援を行っています。	本人・家族の希望を聞き、事業所の提携医の往診や他の医療機関に基本、家族同行で通院されている。診療情報は、関係機関で共有し健康管理している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時には、自施設の看護師が同席し、ご入居者の情報の共有を行っています。また、体調不良の方がおられる時は、必要な対応、処置についての意見を聞き、適切な医療サポートが受けられるようにしています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、当施設の介護サマリーをお渡し、退院の際は、病院の看護サマリー、リハビリ情報をいただくことで、相互の情報共有を図っています。また、その後も連絡を取り合うなどして、関係作りに努めています。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前説明や契約時に、重度化した場合における当施設の指針についての説明を十分に行っています。また、実際に重度化された際は、主治医からのアドバイスを含めてご家族と十分な話し合いを行い、より適切な支援を受けられる場のご紹介、担当者との情報連携を密に行なっています。	設備面(主に浴槽)や医療ケア体制が整っていないため基本、看取りは行っていない。身体的に重度化の傾向にある場合は、かかりつけ医からの説明、本人・家族・事業者等の関係者と話し合いを重ね特養や医療機関等への住み替えの提案をしている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場内の内部研修を通して、急変や事故発生時の備えに関する知識を習熟し、またマニュアルの見直しも随時行って、見易い場所に掲示しています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行い、夜間、発生の想定では、宿直職員の方にも参加していただいています。また、土砂災害に対する訓練も年1回実施し、災害に備えています。	定期的に防災訓練が行われている。風水害を想定した避難訓練に、運営推進会議のメンバーにも参加・見学してもらい実際に実施してみても移動時間や手段について問題提起がいただけた。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者お一人おひとりの性格を理解し、その方に応じた接し方や話し方を工夫して対応しています。また、プライバシー保護に関する内部研修に参加し、習熟出来るように努めています。	その人に合わせたコミュニケーションと聴く力を養うように努めている。入室時は了解を得てから入り生活の場を尊重している。馴れ合いではなく親しみの持てる関係性と年長者としてのプライドを損ねない対応を心がけている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に、各ご入居者とコミュニケーションをしっかりと取り、ご本人が自然とご自分の思いや希望を表現し易いように配慮しています。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間をはじめ、それぞれの方が優先される事を大切にし、お一人おひとりがご自分のペースでお過ごしいただけるように努めています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着ていただく洋服は、可能な方はご自分で選んでいただいています。ご自身での選択が難しい方は、毎日同じ洋服にならない様に職員がサポートしています。また、離床された後、居室にて整容を行っていただいています。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事の盛り付け、食器洗いは必ず一緒に行っています。日曜日の昼食作りでは、皆様のご希望のメニューをお聞きして決定し、それぞれが出来ることを協力して楽しく調理していただけるように努めています。	食事作りが利用者の活性化の機会となっている。最近では流しそうめん、鯖そうめん、茄子そうめん等好評だったと聞く。訪問時は頂き物の野菜を利用者と一緒に漬けた奈良漬が添えられ、役割のある生活が伺える。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量や水分量を業務管理ソフトで記録し、情報を職員間で共有することで、その方の食事の状況を把握し、食事形態や水分摂取の方法を工夫しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月2回、歯科医師と歯科衛生士に口腔往診に来ていただき、口腔内の観察、ケア指導、必要に応じて治療を行っていただいています。毎日のお食事の前には口腔体操を、お食事の後は口腔ケアを欠かさず行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、その方に合わせたトイレの声掛けを行っています。それにより、失敗の軽減に努めることで、自立支援につながっています。	一人ひとりに合わせて定時・随時に誘導しトイレでの排泄を基本としている。身体状況と本人の思いを尊重した個別対応に努めている。市の助成と家族負担・家族の意向にも考慮しながら排泄用品の見直しをしている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	業務管理ソフトの活用により、排便のパターンを把握して支援し、併設施設看護師との医療の連携も図っています。また、お薬だけに頼らず、乳製品により腸内環境を整え、適切な運動にも取り組んでいます。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員と会話を楽しみながら、リラックスして入浴していただけるように努めています。また、午前、午後とお好きな時間に入っていただけるよう、可能な限りご要望に応えられるように努めています。	リラックスして入浴されている時は、本音を聞ける機会でもある。同性介助、異性介助それぞれ本人の意向に添った支援に努めている。今のところ拒まれることはないと思う。好みのボディソープ使用等個別対応もしている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりが、ご自分のリズムで自然に入眠出来るように、居室やホールの環境を整え、それぞれのタイミングで就寝いただいています。また、日中に休みたい方もおられるので、その支援も行っています。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用を全職員が理解し、ご入居者の症状の変化にいち早く気づけるようにしています。新たな処方や変更がある時は、申し送りや記録にて周知するように努めています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意とされる事の把握に努め、日常生活の中で、創作物作り、障子張りや裁縫、お花の手入れ等を行っています。また、家事作業を積極的に行っていただき、生活の中での役割を持っていただいています。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、敷地内や近くの公園、施設周辺まで散歩に行っていたり、中庭にて畑の作業やお花の手入れをしていただいています。また、季節ごとに、ご家族も一緒に参加できる外出行事を行っています。	ホーム向い側にお地藏様があり手を合わす機会となっている。裏庭に出て散歩することで山や田園風景、季節の移ろいを満喫できる。時には猿を見かける。近くのローザンベリーや花見・紅葉等家族に声掛けして一緒に外出している。利用者・家族共に大変喜ばれている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で日常的に使うお金を管理される方は、ご自分で施設内の自動販売機や、定期的に開催される移動販売をご利用いただく事で、金銭感覚の維持を図っていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との電話やオンラインによる会話、手紙のやり取りが気軽に行っていただけるように、随時支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって掲示物を変えたり、季節の花を飾ることで、四季を感じていただけるように工夫しています。また、空調や明るさ、音に対しても配慮し、ご入居者が不快に感じないような空間作り努めています。	壁面の飾り物から季節の確認・日付の確認ができ、見当識への配慮がある。広いリビングの窓から自然の風景を観ることができ、ゆったりと落ち着いた雰囲気生活されている。食前の口腔体操やDVDを観ながらレク体操も実施。ソファに移動して寛ぐ人もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは、自席以外にもソファを設置し、お席での賑やかさから離れて、静かにゆったりとくつろいでいただけるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分で使用されていた物や、愛着のある物を自由に持ち込んでいただけるように配慮しています。居室の掲示物は、その方の目線に合わせ、見易いように工夫しています。	テレビ・時計などが置かれ居室に戻り過ごす人もある。部屋を出て裏庭で気分転換ができる。衣替えは職員と一緒にし、できる力を得ながらシーズン交換や掃除もしている。クローゼットに服が並び今日の服を自己選択できる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境の中で、ご自分で分かることや出来ることが維持出来るように、居室の名前や、トイレ、浴室を分かりやすく表示し、日付表も分かりやすいように手作り作成するなどの工夫をしています。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	前年度より家族会を再開し、ご入居者ご家族ともに大変喜んでいただけた。「年1回でなく、2回開催出来ないか。」とのご要望を複数いただいている。	家族会を年2回実施に変更する。	第1回について、5月19日に既に関催。第2回は、12月のクリスマス会として実施予定。	3カ月
2	33	重度化や終末期に向けた支援を行う際、常にご本人、ご家族との話し合いの場を持ち、方針を共有している。看取り支援は行っていないが、法人全体の体制も含めてご説明している。こうした取り組みを継続していく必要がある。	引き続き、現在の施設の指針について十分にご説明を行い、終末期を迎えたご本人、ご家族の意向に沿った支援が行われるようにする。	4カ月に1度の担当者会議の際、必ず現在の状況と、今後重度化された場合のご希望を話し合い、方針を共有する。以前と異なるご希望をされた時は、随時職員間で情報を共有し、そのご意向に沿った支援が行えるようにする。	12カ月
3	49	コロナウイルスはまだ終息には至っておらず、引き続き対策は必要なものの、皆さんのご希望や、季節に応じた外出支援が求められている。	ご入居者が本来望まれている外出支援を、引き続き実施していく。	お買い物を希望される方の外出支援、ご家族との外出や外泊を希望される方への支援、季節に応じた外出(紅葉狩りや初詣、お花見など)を随時実施し、ご入居者に喜んでいただける外出支援を行う。同時にご入居者や職員の健康状態に留意し、感染対策を継続して行う。	12カ月
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取り組んだ内容	
実施段階		(↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="radio"/>	⑤その他()
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤その他()
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="radio"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="radio"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="radio"/>	⑤その他()